

編集後記

台風15号、台風19号が関東・信州に大きな障害を引き起こしました。この度台風の被害により、お亡くなりになった方々に心よりお悔やみ申し上げます。また、被災された皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。

台風の動きを見ていると、以前の九州を襲った流れから、高い緯度での日本列島を横断しているように思います。そのために台風の対策が十分でない（慣れていない）地域がひどい被害を受けているような印象があります。これは地球温暖化の影響による可能性があり、今後も続くのかと思うと不安が残ります。

さて、本号は東京都での都内透析施設において下水道法の基準を著しく逸脱した排水によって、下水道の運用に支障を来した事例が報告されたことが大きく反映している号となっています。今年春に東京で開催された透析における current topics から「透析装置の洗浄排水に関する東京都下水道局の対応」「透析排水管理の諸問題」があり、日本透析医学会/日本透析医会/日本透析臨床工学技士会からの2019年度版透析排水基準が掲載されています。これを読むといかに透析排水管理に対応していかなければならないかが把握できるようになっています。

最近、患者の自己決定権が注目されるようになり、患者の高齢化と相まって福生病院のことが話題となったように「透析導入および差し控え」が注目されてきています。「透析患者の自己決定プロセスと共同意思決定（SDM）—透析スタッフが知っておくべきこと—」は日本でSDMの普及を進めている小松先生、石田先生のお二人によるまさに時宜を得た論文です。一読されぜひ日々の臨床に役立てていただきたいと思います。

本年9月に透析施行中の腎性貧血に経口投与可能な薬剤（HIF-PH阻害剤）の製造販売承認が得られました。この薬剤は従来からの腎性貧血治療を大きく変える可能性があります。基礎研究並びに治験にかかわった第一人者の田中先生に「腎性貧血とHIF stabilizer」として総説を書いていただきました。HIF-stabilizer（HIF-PH阻害剤と同じものを意味する）を使用するに当たってぜひ参考にさせていただきたいと思います。

「サイコネフロロジー—今日的課題と展望—」について理事長である西村先生に書いていただきました。リエゾン精神医学をより広く深めていきたいという先生の思いが感じられる論文です。認知症や抑うつ状態など透析室で問題となっていることの糸口につながればと思います。

本号が皆様のお手元に届く頃には、今年は流行が早いというインフルエンザが脅威となっているかもしれません。「透析室のインフルエンザ対策—アウトブレイクをどう防ぎ、どう対応するか—」の論文はきっと皆様のお役に立つと思います。

今号も以上のように内容も充実し、時宜を得た内容になっているかと思います。どうか皆様の透析医療にお役に立つ情報が提供できればと思っています。今後とも本誌にご期待ください。